

地域創生

若者×企業×図書館で未来をつくる

五十嵐 裕
松本市中央図書館

1 はじめに

ビジネス支援のサービスというと働く世代に対しての就業支援のイメージが強かったが、今回の講習を受け「人が生きていくことを支援する」ことがビジネス支援の根底にあることを学べた。少し見方を変えるだけで支援する課題も沢山あることに気づけた。講習を経て当館の課題とも向き合うことができ、先輩たちの先行事例も紹介いただき実りある実習になった。今後は様々な機関と連携して図書館で行っている価値をいかに伝えていくか自ら考え行動していきたい。

本レポートではワークショップで発表した《Group 4 企画提案書》についての詳細をまとめていく。講習会内で学んだことを取り入れながら若者とともに松本市の未来をつくれるようなビジネス支援サービスを提案する。

2 現状と課題

松本市は長野県のほぼ中央に位置し人口約 23 万 1 千人¹の中核都市である。北アルプスや上高地、美ヶ原等自然に恵まれた土地と、松本城を中心に城下町として栄えた歴史と伝統文化に育まれてきた。現在は「岳都」「楽都」「学都」の三ガク都を街づくりの基本理念²としている。商業の歴史も古く、江戸時代から中南信の人々の生活を支え栄えてきたため商都松本と称され愛されてきた。

そんな松本市だが、昭和の区画整理事業から 40 年以上が経過し、中心部のビルや共同店舗の建て替えが必要な時期を迎えている。また、通信販売や移動販売、郊外型ショッピングセンターの普及等の要因により 2025 年には大型商業施設の相次ぐ閉店がおこった。その結果市街地の空洞化が加速し若者文化の拠点が失われつつある。

人口も 2002 年をピークに減少傾向にあり、特に生産年齢人口である 15 歳から 64 歳が一貫して減少している。さらに高齢化率は微増し続け 2025 年には 29.0%となった。

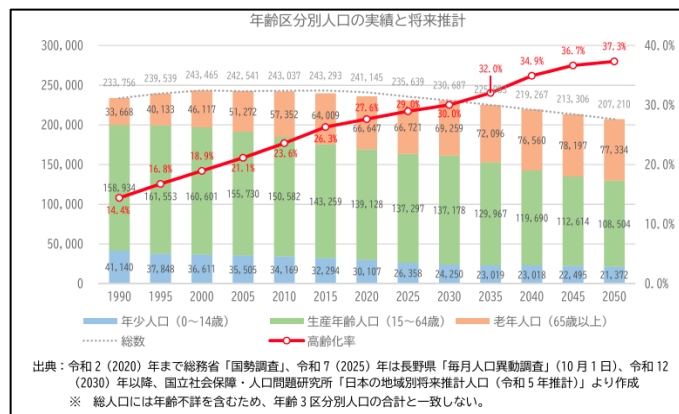


図 1 出所：松本市人口ビジョン（案）²

今後の推計でも下げ止まらずに推移する見込みで、生産者の高齢化が進み後継者不足、担い手不足が懸念される。

そんな中、信州大学をはじめ市内に大学や短期大学が複数存在することから、県内他市では見られない特徴として 15 歳から 19 歳の人口転入率が高い。一方で 20 代の市外流出が多く、これは進学で流入した若者が就職のタイミングで市外へ流出していること、キャリアを求めた若者が都心へ流れていることが要因であり、働き世代である就職先の受け皿が弱まっている可能性が示唆されている²。実際に仕事についての調査結果³ではやりたい仕事が見つけない、適切な収入を得られないと考える市民が多い。高校生世代の市外就職者においての多くは都会に住みたいという理由で転出している⁴。これらは 2020 年の国勢調査の結果⁵にも表れており、松本市の就業率は全体的に長野県の就業率より低い傾向にある。市の意識調査⁴によると、若者の幸福度は地域との関わりや居場所の有無に相関が見られることが分かった。このことから若者と地域の関わりを増やすことや若者の居場所づくりといった取組みが求められる。以上のことから、若者の市外流出を防ぎ地域活性を目指すことが本市の課題と考える。

3 事業の概要

3-1 概要

企画案として「知識と交流のコーディネート」を考えた。「市街地の空洞化→にぎわい喪失→定住意向減少→市街流出の増大→人口減少・高齢化の進行」という負のスパイラルを改善するため、図書館にある知識を若者・企業の双方に提供しながら交流の場としての空間を提供する。新たな着眼点による気づきや発見から、学びを得てものごとを発信することで若者の地域協働や地元愛着に繋げたい。企業側も若者のアイデアを取り入れることで新規事業の立ち上げや事業創出への糸口を見つけるきっかけとなる。若者と企業が出会い結びつくことで市街地の活性化へ繋がると考えた。

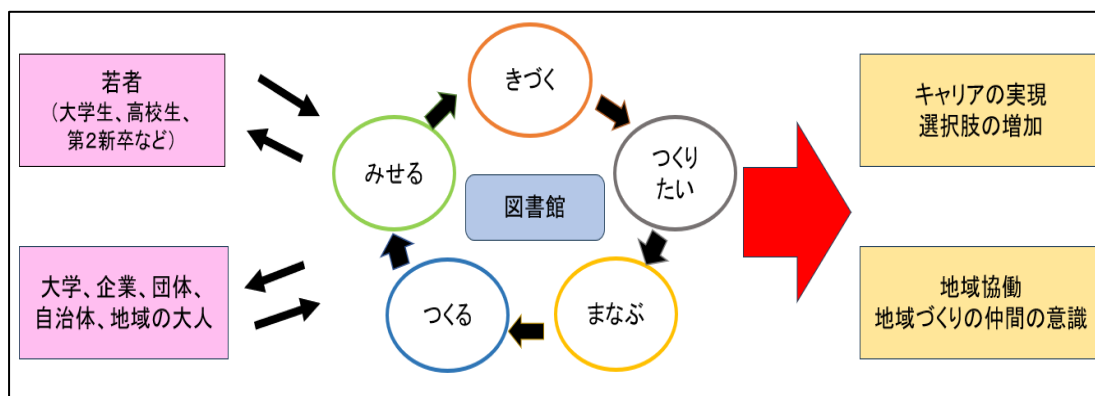


図2 出所：BL 講習会発表資料

3-2 対象者

キャリア実現や地域協働の考えから、今回の対象者は若者（高校生、大学生、第2新卒など）、起業を考えている方、事業継承を検討している方、新しい事業を検討している企業、若い戦力を求めている企業とする。

3-3 連携先

- ・高校、大学などの学校
- ・商工会議所
- ・庁内各所（商工課、農政課、文化復興課、文化財課、学校教育課、産業振興部、若者参画課、生涯学習課 他）
- ・日本政策金融公庫
- ・ハローワーク
- ・地元企業（カケルバ、一般社団法人 KOKO、ICT 拠点施設サザンガク 他）

市役所や商工会をはじめ市内ではすでに若者と企業を繋ぐため、様々な団体が活動している。学生をはじめとする若い力と地域企業が一緒になって、新しい松本を作っていくことを目指すカケルバ⁶。若者が地域、社会と出会いここにしかない経験や挑戦を通して、自分らしい選択ができる社会の実現を目指す一般社団法人 KOKO⁷。レンタルオフィスやセミナー、相談会を開催している ICT 拠点施設サザンガク⁸。そういった団体、学校、組織と連携し情報交換と資料提供を行いあう。

学校との連携は今回の事業では欠かせないものだ。キャリア支援センターや就職指導課といった学生就労に関わる部署はもちろん、学校図書館や総合学習・探求授業を担う先生との関係構築を深めていきたい。

時には図書館から各所へ出向き資料の展示・貸出を行う。健康や生活、創業や起業、調査、探求資料、地域資料等多岐にわたる裏付けある資料提供を行うことで市民の課題解決と地域理解、就職活動に繋げていく。それぞれの連携先から得た情報を図書館が精査し双方に提供していくことで、事業を円滑に遂行しそれぞれを繋ぐ架け橋になっていければと考える。

4 事業内容と効果

4-1 文化や特産品の紹介

大学で松本市に転入してくる学生はもちろん、市内に住んでいてもなかなか文化や特産品、地元企業について知らないことが多い。実際に伝統工芸品において 2022 年に行ったりブランディング調査委託事業の調査⁹から木曽漆器、飯田水引など県内の認知度が 6 割を超える伝統的工芸品があるものの、全体的な認知度は低いという結果が確認できる。そこで誰

でも自由に文化や伝統に触れ合う機会をつくるため、商工課や文化振興課と連携し、文化や地域に関する伝統技能や記録映像等の資料を借り図書館で資料展示と放映会を行う。気兼ねなく来館できる図書館で行うことが重要だと考える。

また、高校・大学と提携し巡回展示を実施することで、より身近に感じてもらえるよう工夫していく。伝統や文化についての総合学習や探求事業には関係各所と連携し率先して資料提供を行い学生が少しでも興味を持つきっかけを作っていく。

4-2 企業紹介

市の高校生を対象にした意識調査⁴によると松本市近郊の会社の認知度は低く、半数以上が知らないと回答した。そこで企業を知るきっかけを増やすため企業紹介コーナーを設置する。企業や団体が所持している社史やチラシを集め、気になる企業情報をいつでも見られるように公開する。さらに図書館で市内企業の業績確認等を行い様々な企業ランキングをつくり紹介していく。並行して業界に関連する資料の貸出を行うことで理解を深めやすい環境を作っていく。

当館では企業を知る手段のひとつとして雑誌スポンサー制度を取り入れている。スポンサーとなった雑誌の最新号のカバーに事業者名と広告を掲示し情報発信の場を提供している。現在 143 タイトル中 6 タイトルの協定を結んでいるが、もっと沢山のスポンサーに活用してもらうために、より一層広報に力を入れていく。さらにスポンサーの紹介展示や講演会を開催することでその企業を深く知る工夫をしていく。

最終的にはハローワークや商工課等と連携し後継者募集事業所マップや求人マップをつくる。そして学校のキャリアセンターや就職指導課と連携し、作成した企業ランキングや求人マップを提供し、職場体験学習やインターン紹介を行うことで地元就職率の向上に貢献していきたい。

4-3 図書館ビジネスコンテストの開催

地域の課題に目を向けた内容で開催する。日本政策金融公庫と若者参画課に協力を仰ぎ、プラン作成や様々な相談に対し図書館で支援できる体制を整える。参加者は市内の高校、大学、短大に働きかけ募集する。審査は企画内容に関連した業界の意見を取り入れ、企業と若者の交流の場とするために、商工会や商工課に加え地元企業にも参加してもらう。審査後は募った企画案を図書館で展示するとともに SNS での発信、地元紙での紹介を行い、最終的には地元のアイデア BOOK として図書館で資料として所蔵し、いつでも閲覧できる状態を作り今後の糧にしたいと考える。

企画案をもとに起業や商品開発を行う際は商工会や商工課と連携し創業支援を行う。図書館としては主に市場調査や業界動向の調査、レフェラルサービスを行っていく。

4-4 図書館で若者支援窓口を設置

当館は立地上、信州大学や高校が近くに点在しているため支援窓口を設置することで、若者のサードスペースの提供に繋がると考える。若者参画課と連携をとり産業カウンセラー等の資格を持ったメンター制度の導入を行い、毎週曜日を決めて開催する。

また会議室の一室にオープンデーを設け多世代交流の拠点を提供する。若者と大人との交流の場、探究活動や地域活動の場、相談会や打ち合わせの場として開放していく。

SNS や地元紙、企業や学校と連携をとり、若者支援窓口やオープンデーの開催日を周知し気軽に来館できる体制を整えていく。

4-5 図書館でマルシェと交流会の開催

商工会、商工課、学校等と連携しテーマを決めて年に最低でも2回は開催したい。対象は市内に在住する個人または団体、企業、学校とし、出展ブースの一角には関連する図書館資料を置いてもらう。学生や民間企業によるワークショップ、地元特産品や農作物の販売ブース、地元商店と連携したスタンプラリー、工作や手ばかり体験場等を設け普段触れない情報と触れる場を提供し興味を持てばすぐに調べられる環境を整える。図書館ビジネスコンテストで起業した企業や開発した商品は積極的に取り入れていく。

マルシェ終了後、出展者と利用市民を募って交流会と意見交換会を開催する。新たな視点による情報のブラッシュアップと、人と人との繋がりを作ることが目的だ。そこで生まれた新たな企画を市や団体、企業、学校と連携し実現していきたい。

5 指標と今後の展開

事業を3年計画と考えたときの指標の目標値として下記の通り考えた。それぞれの事業を行った後はアンケートを行い、今後よりよい事業を展開するために改善し磨きをかけていく。

- ・雑誌スポンサー数→30 タイトル
- ・図書館で紹介した地元企業への職場体験、インターン数→60 人
- ・ビジネスコンテストの参加人数→30 人
- ・ビジネスコンテストから生まれた起業数→3 件
- ・若者支援窓口の利用回数→月 20 人
- ・マルシェの参加者数→100 人
- ・交流会の参加者数→30 人
- ・意見交換会から生まれた商品開発数や新サービス数→6 件

3.事業の概要 ⑥スケジュール

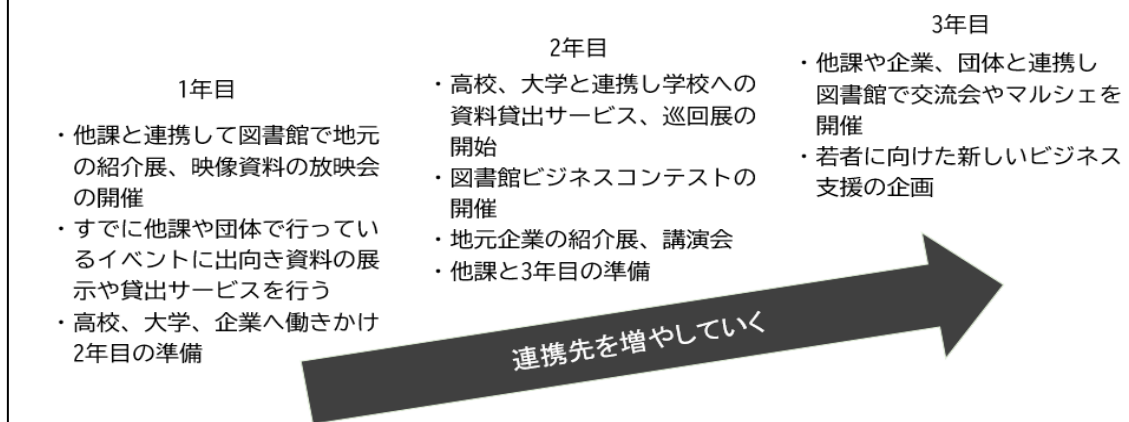


図3 出所：BL 講習会発表資料

図書館を軸に若者、団体、企業、学校との橋渡しを行い多世代との交流を実現することで、若者が孤立を感じず地域の仲間意識を持ち主体的に行動できるような環境をつくる。様々な繋がりをコーディネートすることで地域の課題解決に貢献していく。

進学、就職等で松本を離れても、ふとした瞬間に思い出したり U ターンのきっかけになるよう、多くの縁を紡いでいくことが今回の事業で大事なことだと考える。松本市への思い入れ、愛着を深めること、ファンを増やすことを目標に事業を展開していきたい。

6 おわりに

講習で一方的な事業ではなく互いにプラスになる事業を計画することの大切さを学び、課題をつくる上で今までになく様々な視点に立ち考えることができた。今後の業務に欠かせない貴重な経験となった。講習で学んだことや繋がった縁を大切に今後の業務に励んでいきたい。

講師の皆様、事務局の皆様、受講生の皆様、ありがとうございました。

注、参考文献（URL 確認日 2026 年 6 月 14 日）

¹松本市「現在の人口・世帯数 - 松本市ホームページ」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/5/5926.html>

²松本市「松本市第 12 次基本計画（案）及び 松本市人口ビジョン（案）」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/121494.pdf>

³松本市「松本市第 12 次基本計画策定に係る調査結果報告書」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/112569.pdf>

⁴松本市「松本市第 12 次基本計画策定に係る市民意識調査報告書」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/uploaded/attachment/116868.pdf>

⁵松本市「令和 2 年国勢調査結果について」

<https://www.city.matsumoto.nagano.jp/soshiki/5/50037.html>

⁶合同会社松観堂「カケルバの特徴」

<https://shokando.co.jp/service/>

⁷Syncable「一般社団法人 KOKO」

<https://syncable.biz/associate/koko/vision#associate-tabs>

⁸33GAKU《サザンガク》「33GAKU《サザンガク》 | 松本市のコワーキングスペース」

<https://33gaku.jp/>

⁹長野県産業労働部産業技術課「長野県伝統的工芸品産業振興方針」

<https://www.pref.nagano.lg.jp/mono/kensei/soshiki/shingikai/ichiran/shingikai/documents/sinkouhoushin06.pdf>

¹⁰松本市中央図書館／編（2025）.『令和 7 年度図書館概要』.松本市中央図書館.

¹¹D B ジャパン／編集（2022）.『ズバリわかる!図書館利用者に喜ばれる「ビジネス支援サービス」』.D B ジャパン.